


守政初ヨリ炮術調煉ノ士専ラ用之、紙捻製テ形チ編笠ノ如ク、扁平ニテ小形也、黒漆ヌリ、稀ニ記號等箔押ニ描クモアリ、被ラザル時ハ腰ニ提ル、多クハ調煉ノ場ニノミ用ヒ、往來ノ間ハ被ル人稀也、此笠ハ西洋炮ヲ扱フニスコドールゲルト云時、陣笠、騎射笠ニテハ障トナル故ニ、是ヲ造リ出シタルナリ、

〔守貞漫稿二十九〕島笠略圖

南海八丈島ヨリ製シ出ス、故ニ島笠ト云、江戸ニテ用之、京坂不用之、篠竹二ツ割ヲ以テ造ル、乃チ幅一分許ノ割竹也、略中割竹ヲ縦横ニ下圖ノ如クニ編リ、篠竹二ツ割、幅一分許ナルヲ、又皮

ノ方ヲモ削リ平クス、故ニ幅一分許ノ兩邊ニノミ皮ヲ殘セリ、

〔夫木和歌抄三十二〕略玄がらきがさ

雨すぐるとやまの道のこがくれに○こがくれに、一作こぐれより、玄がらきがさぞ見えがくれする

〔謠曲〕巴

所は爰ぞあふみなる、玄がらき笠を木曾のさとに、涙とともへはたゞひとり、落行しうしろめたさの執心をとひてたび給へ、略玄うしんをとひてたび給へ、

〔貞徳文集上〕乍無心之儀、摺箔小袖宇津宮笠略中躍衆之裝束、不殘可被恩借候、

〔毛吹草三〕下野 宇都宮笠出家著之

〔我衣〕天和ノ比ヨリ、加賀笠、大名衆女ノカムリモノナリ、前ヲ竹ニテ止メタリ、寶永末ヨリフチヲ針金ニテ止ル、上總ヨリモ出ス、天和比ハ内ヲスゲニテ半分フキタリ、正徳ヨリ内一ハイニフク、

絹糸ヌヒキレイナリ、

〔近世女風俗考〕葛笠菅笠の事

寶永正徳年間より、つま折の加賀笠といふ物流行す、略中内證鑑寶永七年作、同八年印本、に、流行染の小袖